

ますますひろがる
トレイルOワールド

トレイルO NOW!



トレイルO
委員会
こやまたろう

トレイルOの新しい競技形態の導入が、現在 IOF トレイルO委員会で検討されつつあり、各国でトライアルが行われている。今回はその紹介

その名は TempO (テンポ)

フットO競技に Long, Middle, Sprint の種目があるように、トレイルOの世界での Sprint 競技ともいえるのが「TempO=テンポ = テンポのあるトレイルO」、その名のとおりスピード感あふれるトレイルOのニュー・スタイルだ。

タイム・コントロール (T/C) だけで構成されたショートコース

さてスピードを求める・・・といっても、トレイルOでは競技時間を争うわけにはゆかない。では、TempO とはどんなトレイルOなのか？

それはスタートからフィニッシュまでのコース上のコントロールは、すべてタイム・コントロールだけで構成されていることである。

スタートしたあとは次から次へと T/C を回ってゆくだけで、いわゆる「コースをまわる」といった従来のコースの概念ではない。

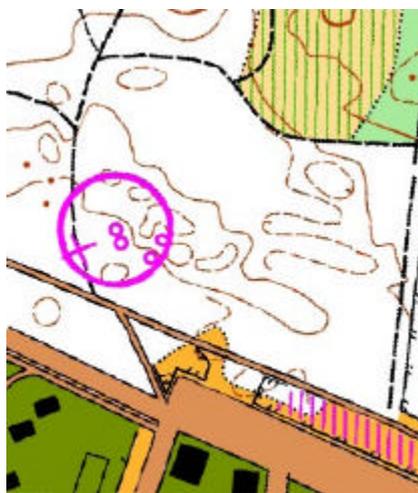
一か所の T/C-DP (デジジョン・ポイント) で 二つのタイム・コントロール(T/C)をこなす

さて、さらに具体的に説明する。これが今までの慣れ親しんできた T/C でのやりかたと一番違うところだろう。

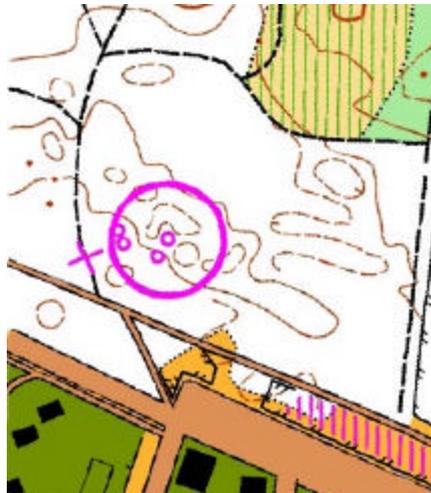
従来からの T/C での競技スタイルは、ひとつの T/C ではひとつのコントロール、ひとつの課題に取り組んできたが、TempO では一か所の T/C で二つの課題に取り組むことになる。

まず従来の方式でひとつの課題を解答したら、競技者はそのままの位置で動かない。続いて次の課題の地図が新しく渡され、異なる課題に取り組む。

同じ T/C-DP から、同じコントロールを眺めるわけで、フラッグも初回と全く同じものである。計時は各課題ごとに別々行われる。



TempO の TC1 (タイムコントロール 1) 課題は「沢」



TempO の TC2 (タイムコントロール 2) 課題は「鞍部(あんぶ)」。同じコントロール群、同じ DP (デジジョンポイント) を使って 2 つの問題が設定されている。



フラッグ数は 4個が主流?

Zero アンサー (正解なし)あり

現在、各国でさまざまなスタイルでトライアル(試行? 試行錯誤?)が始まっているが、フラッグ数は A-D の 4 個を使用するところが多いようだ。中にはスウェーデンのように、A-F の 6 個のフラッグを試しているところもある。(これはオーリングゲン方式とミックスしているもの。1 コントロールにおけるフラッグ数は IOF 規則上、最大 5 個までと決まっており、この変更はない)

次に Z アンサー (正解なし) を設けている。これは、同じコントロール、同じフラッグを 2 度眺めておこなうため、どうしても 2 回目の問題解決は易しくなってしまうことを避けるためでもあり、Z アンサー (正解なし) の導入で、T/C 競技は従来に比べてきわめてスリリングなものになる。

試行国での競技者の反応は好評で、TempO における Z アンサー (正解なし) 導入はほぼ確実であろう。

なお、スウェーデンでは、持ち点を持った二人の競技者がひとつの机に並んで座り、同時に同じ課題に挑戦し、先に正解を出したものが相手のポイントを獲得する・・・というゲーム性を持たせた方式も試されている。(本号の田中 徹氏の「スウェーデン スーパーウイークエンド」の記事を参照されたい。)

これからも様々なスタイルの TempO の試みが積み重ねられることだろう。

電子パンチ導入のころみ

あわせて知るべきことは、各国での TempO のトライアルの際に、A, B, C... を指差す従来のポインティング・ボードでの回答方式、およびコントロール・カード(CC)に代えて電子パンチの試行

が行われており、Si と EMIT の両方式が試されていることだ。

T/C の回答者のそばに Si あるいは EMIT のステーション 6 個を（上下に 3 個ずつ二列に）セットしたボード（あるいはトレイ）を置く。6 個のステーションはそれぞれ Start, A, B, C, D, Z を意味し、判りやすく大きくラベル表示がされている。

競技者は CC の代わりに Si あるいは EMIT のカードを持ち、スタート場所でカードをアクティブにしてコントロールに向かう。

T/C に到着したらまず Start ユニットにカードを挿入し、競技開始の係員の合図があるまでそのまま待つ。

カードのリフト・アップと同時に競技用地図が渡されるか、あるいは地図のカバーが外されて競技開始となる。

回答が出たら、そのアルファベットに該当するユニットにカードを挿入（セット）する。この時点で、選択した回答と時間が記録される。

これを繰り返し、フィニッシュ後に使用カードを提出すれば、直ちに成績の計算チェック処理が行われ掲示用成績表がプリントアウトされる。



Si ステーションを 6 個並べたトレイ

トレイルOでは EMIT より Si が好評

7 月にフランスで開催されたヨーロッパトレイルO選手権大会 (ETOC) の際に、本競技に併せて開催した TempO のトライアルでは、Si と EMIT の二種類の電子パンチを試みたが、競技者の意見は圧倒的に Si 支持であった。EMIT はユニットに E カードをセット（挿入）するときに方向性があるためどうしてもタイム・ロスが生じ、0.5 秒を競う T/C には少々不向き。また Si の様にピープ音で記録の確認が出来ず、EMIT カード

のディスプレイで確認しようとする、光線の具合等で見にくい場合がある・・・などで Si の利便性に軍杯が上がった。

なお、ETOC では各 T/C においてストップ・ウォッチで計時のバック・アップを行った。

なぜ 今 TempO ?

以上、最近話題になりつつある TempO の説明を行った。概要はご理解いただけたと思う。では、なぜ TempO がこのところ急速にクローズ・アップされてきているのか。

それはオリンピック加入を目指す TempO における Sprint 競技の導入と同様に、メディア・フレンドリー、観客効果、短時間での成績確定、TV 中継などを意識する・・・など、パラリンピック競技プログラム加入を意識したものである。

また、そのようなこと以外でも、競技者自身にとっても、新鮮で非常にエキサイティングな競技性の強いトレイルOとしてアピールすると思われる。

今後大いに期待できるトレイルOの新競技形態といえる。



EOC での TempO 風景

これからの TempO

現在、IOF のトレイルO委員会では将来の TempO 選手権大会開催実現 (2010? 2011?) へ向けて動き出しており、そのための各国での試行にもとづく検討を拡大しつつある。

英、フィンランド、スウェーデン、フランス、ロシアにおいては既に何回かの試行を実施し、内容の検討を進めている。

アジア地域を代表するわが国においても、早急にトライアルの機会を設けて参加者、運営者側からの意見を集約

し、IOF へ必要な検討意見の具申を行う必要がある。

日本での試行実現のためには、トレイルO 発展に熱心な関係諸氏の絶大かつ積極的な協力を急ぎ望むところである。

3月の JK大会でもトライアル

なお、2008 年 3 月 21-24 日に英国はロンドンの南南西クローボロー Crowborough 周辺で開催される英国最大規模の OL 大会である JK 大会においても、TempO のトライアルが行われる予定である。TempO を実体験する絶好の機会かもしれない。（英国では 3 度目の試行。かなり本格的な？ or 意気込みだけ？）

以上、トレイルOの新しい動きである、TempO についての紹介を行った。

***** こやま たろう **

なお、TempO に関しては次のサイトからも関係資料を入手することが出来る。
<http://www.trailo.org/index.htm>

その他詳細については小山までお問い合わせください。

trailotaro-k@xb3.so-net.ne.jp

（予告）
第 4 回
全日本
トレイル・オリエンテーリング
選手権大会 (JTOC)
2008 年 5 月 17 ~ 18 日
（二日間大会）
於：東京近郊

JTOC の E クラス（選手権クラス）出場資格獲得のための指定大会の予定

- ・ 1 月 20 日（日）
愛知 OLC トレイルO 大会
- ・ 3 月 2 日（日）
京葉幕張・佐倉二日間大会
- ・ 3 月 29 日（土）
トレイルO in OSAKA

その他の情報は

<http://www.orienteering.com/trailo/>
どうぞ。